

人物往来

6 「美とエレガンス」生涯追求 ①



ピアニスト・北海道教育  
大学岩見沢校准教授  
深井 尚子

今年も残りわずかになりましたね。人物往来の連載のおかげで、私自身もかつて交流のあった素晴らしい方々を思い出しやすい機会となっています。

今回は、フランス料理研究家で、アートフラワー創始者の「飯田深雪」先生との思い出をお話します。深雪先生とは、大変深い付き合いをさせていただき、お話ししたいことがたくさんあります。そのため、2回にわたってお伝えしたいと思います。

飯田深雪さんは、1903年生まれ、2007年に103歳でお亡くなりになるまで、現役で料理とアートフラワーを伝え続けられた、尊敬する女性です。4歳台以下の若い方は「存じないかもしれませんが、50歳台以上の方は、懐かしく思われる方も多いと思います。

飯田先生は、戦後の物資のないころから、「美」と「エレガンス」で日本人の心を豊かにしたいという信念をお持ちで、当時、ご自分のビロッドのガウンからお花を作ることを考案され、その後、研究を重ね、「アートフラワー」を考案されました。絹の布を染色し本物のお花と見間違っような精巧で美しいアートフラワーを自ら製作し、教室を開講され、たくさんの後継者を育てました。日本政府、フランス政府からも勲章を授与され、モナコの宮殿にアートフラワーを飾るよう依頼されたり、ヨーロッパ各

いざ出陣高らかにおでましか冬將軍は北に繰り出す  
カレンター一枚残して早師走いゆく我に時は待たざり  
どこまでも見渡す限り青い空霜月始めの日和つれし  
霜月と雪中の葉書つけて知る思い出たどりよみがえる人  
常のご起き出し朝の病変に君恩絶ふまでの九十分程  
菊池 正昭  
ジャイアンツの熱きファンの君なれば原の色紙も棺に入る  
菊池 正昭  
葉を落とす枝に小さく無花果が実をつけたれと告ぐむ夫なし  
村山 朝子  
気温一度上昇すれば無花果の実の熟すやも美唄の露地に  
村山 朝子  
夫植えし葡萄一房持ち上げて秋陽にかざせば胸にせつなし  
山内 加寿美

地でも展覧会を開催し、国際的な活躍をされました。  
同時に西洋料理の研究も深められ、家庭でもできるフランス料理をたくさんの方に伝えました。それにもないテールセッティング、食器のデザインなどの融合から「美」と「エレガンス」を生み出した方でした。  
深雪先生との付き合いは、デザイナーである私の母が、深雪先生のお洋服を依頼されたことから始まります。母は、デザイン、製図からすべて一人で行うデザイナーで、若いころは1点物のドレスを中心にたくさん洋服を製作しました。今は、高齢になりましたので、私の演奏会用のドレスのみを製作しています。が、当時は、深雪先生の専属デザイナーとして、たくさんドレスをお作りしました。深雪先生の晩年、フランス政府からの勲章の授章式のためには、総ドレス、総スパンコールのロングドレスを私の母がすべて製作しました。そのロングドレスは、アートフラワー展にも展示されるほど、素晴らしいものでした。  
母は、デザイナーとしてだけではなく、深雪先生から絶大な信頼を得ていました。プライベートな話題もお話くださったそうです。そのため、深雪先生は、娘である私にも心を配ってく

郷土文芸

美唄短歌森の会

中空知の郷土文芸

赤平短歌会

中国の「国威発揚成功」の記事 七十年前  
日本もありき 志田 敏彦  
ゆるやかに動く雲あり急くもあり映して夏の水面しつし 田澤 節子  
服はけ何か欠点探し出しやっと決心ゴミの袋へ 中村 洋子  
生きてある幸せ呼んでお茶を飲む一日暮れゆく陽は炎色 佐々木かしあ  
秋空に上手の笹刈り道するべ老木の根と独歩の碑なり 平瀬 明美  
詠みためし歌の数々此の年も秋茜とぶ群なしてこぶ 今野 節子  
少しづつ高みを目指し噴きあがり落下激し

だきり、留学中の私の様子もよく聞いて下さったといひます。  
母は、深雪先生からたくさんのお話を教わったといひます。たとえば、「プレゼントをいただいた時は、その日のうちに自筆のお礼状をたすよ。」といい、机の上には、常に筆記用具と便箋が置いてあったり、深雪先生のお部屋には、いつもお花であふれていて、ベランダにもさまざまなお花を育てていたといひます。  
日常生活では、一般的に「美」と「エレガンス」を追求することは、なかなか難しいことですが、私の母は、深雪先生の教えに導かれるように、今でも、お花に囲まれた生活を心がけ、美しく暮らすことを実践しています。  
今回は、深雪先生のお料理について、また、私との暖かい交流についてお話しします。

アルバムに遺影あまたや虫の秋  
松倉ゆるる  
くまげらの雨掛け毎に木の葉散る 佐藤 雅雄  
古里の女の迎える温め酒 大川水野流  
朝霧の包み込む街また醒めず 瓜 郁夫  
抱う手に温みほんのり今年米 口笛に昭和の望郷秋惜しむ  
台風や名のある木々の落葉舞ふ 天谷 良華  
秋の波北の大地をあはれ打つ 茂木 末子  
文机に秋日抱きてうたた寝し 田中むとく  
天女らが遊ぶ浜辺の秋桜 北村 播州  
紅葉舞ひ絨毯湖へ駆け行き 小川 明美  
紅葉舞ひ絨毯湖へ駆け行き 松倉 絹江  
夕陽あび雀むらがり落穂食む 真鍋 和子  
夕映えや枸杞の実赤くたわわなり  
空澄むや越えし峠の石畳 神原美智江  
敬老日指折り数へ母思ふ 田中むとく  
膝小僧温め恋しく九月尽 首傾け思案顔して赤蜻蛉 出来秋に影さすよなT P P 青空のさびしき日なり吾亦紅 黒板に今年の出来高太く書く 忽ちの刈田となりて村静か 松倉 絹江  
花林短歌会滝川支部  
八十路ゆく細くなりる足となりかき長靴はうと思ふ 野村 ヒロ  
大根と酒粕求め木の樽に漬物つける冬の蓄へ 大木に萬葉陽花の花からみ足裏にやさし土の道ゆく  
透きとほる水を湛へて支笏湖は太古のまきに森に抱かるる 桑原 和子  
大植町の伝統芸能「鹿舞」の四本の足にたぎる躍動 いただし水引車の株植える妹の容体ききわし朝 苔米地久枝  
健闘は私の自慢されといま足を庇ひてバスを頼りし 中田トミ子  
唸る風雨戸を飛ばし汽車を止め大揺れの木を只みつめをり 大江ミヨ子  
草叢に蟋蟀鳴きて近づくに忍び足にもびたりと止みぬ 松の枝にかかると蜘蛛の巣ききらと僅かの風にひととき揺れる 西澤菜旬代  
細い足なげ出し道に横たはる小鹿に鴉あまた群がる  
いつより来しか鳥あり空知野の空を飛びある夏のまひるを 小島 邦子  
五回目の足の手術に耐える我れ背を押す夫は強き身方よ 菜園のトマト熟して赤・赤とジュース作りて朝に飲みおり 土居美恵子  
足腰を鍛へておかむと筋トレと脳トレ短歌風吹きてこよ 十年を育つ石楠花はな咲かず花・木のいのちあはかなきよ 大野 弘子  
国後の渚に出でし間歌泉裸足ではしゃぐ十二の私 眠られぬままに閉じいる眼裏に国後砂丘の紅き浜加子 石山 キエ

八十歳過ぎのイマヨさんは札幌で畑に忙しい。種から育てたトマトは七十本も立っている。農業を極力使わないから、青虫は手で除いた。時に二度も手づかしたこのない息子がやってくる。自分が丹精したかのように振る舞い、連れてきた同僚たちは縦横に野菜を持ち去る。カラスがトウモロコシを狙うのも油断できない。背が低く丸い体型のイマヨさんが、カラスを追いかけて奮闘する姿を想像して私は微笑む。タマネギがカラスを追いかけている。

十一月のサハラ砂漠をラクダが行く。私の前にイマヨさん。ラクダの鞍にタマネギを思わせる姿で揺れている。彼女を海外へ導くものは何だろう。壮年で亡くなった御主人が遺した資金力は確かだ。だが、余裕があつてもひとり海外を目指す年配者が多いとは思えない。彼女は言う。「人間が作らないものを

サハラ砂漠とイマヨさん  
石田 恵子  
抜きの作業が国で待つ。一年分の味噌も作らなければならぬ。ラクダは足が長いせい、見かけよりかなり揺れる。ガタンガタン急斜面を下るときは振り落とされるかと鞍にしがみつく。『月の砂漠』の歌が口をついて出るといつ人ものいるが、ロマンチックとはほど遠い姿で、私たちは砂丘を超えて行く。

赤平俳句連盟  
葬煙のかたに立てり秋の虹 阿部 敏男  
貸し店の貼り紙ふやし街は秋 錦秋の里に暮れる過疎の街 大西 豊  
心急ぐ紙上に歩く秋道路 散りぢりて空いつぱいに鰯雲 七曜のめぐる速きや秋の暮れ 鈴木 涼風  
照る紅葉見上げる老いの二人かな カボチャ採る獣園型も実りける 木村 千代  
柳散る鮭の遡上のおと先に ささやかな婚儀もありて秋惜しむ 吉田知寿子  
母の忌に供ふ母郷のおけき柿 帰郷のチヌーバームーンを追連れに 児玉 佳恵  
涼しや笑い上戸の一家族

今号の番号  
I-29  
O-66  
今までの番号  
B-14 N-31 N-39 G-55  
B-4 N-42 N-44 G-46  
I-23 G-51 B-8 O-69  
ルール  
「プレス空知」で毎号、ビンゴ番号を2〜4個発表。左図の例のように4列で「王」が完成したら「当選」です。最初の人には3万円、2番目の人には1万円、3番〜6番目の人には5千円プレゼントします。同時の人が多数の場合は抽選します。「ビンゴ」になった人は、水曜発行の場合は木曜（午後5時まで）、土曜発行の場合は翌月曜（同）までにご連絡を！

プレス空知 定期購読者限定  
賞金総額 6万円 第3回紙上ビンゴ  
今号の番号 I-29 O-66  
今までの番号 B-14 N-31 N-39 G-55 B-4 N-42 N-44 G-46 I-23 G-51 B-8 O-69  
ルール  
「プレス空知」で毎号、ビンゴ番号を2〜4個発表。左図の例のように4列で「王」が完成したら「当選」です。最初の人には3万円、2番目の人には1万円、3番〜6番目の人には5千円プレゼントします。同時の人が多数の場合は抽選します。「ビンゴ」になった人は、水曜発行の場合は木曜（午後5時まで）、土曜発行の場合は翌月曜（同）までにご連絡を！  
空知新聞社岩見沢支社  
岩見沢市9条東1丁目27番3号  
TEL 0126-22-3700 FAX 0126-22-8367

新鮮な素材に匠の技が生きる  
ランチセット 11:00~14:00 お飯、サラダ、フルーツが付きます  
おいしい寿司 出前 いたします  
ふぐコース ¥8000〜  
ご宴会、クラス会、ご法事、大切なお客様のご接待など、幅広くご利用いただけます。  
平日 10:30~22:00  
日・祝 10:30~20:00  
本店/岩見沢市2条西1丁目  
TEL 22-0219  
いわみざわ 清寿司